

第1・2種衛生管理者模擬試験

解答は304～305ページです。

以下の問題は、第1・2種衛生管理者の本試験の出題に則した形式になっています。

- 第1種を受験する方は、すべての問題を解いてください。
- 第2種を受験する方は ① ② と指定のある問題だけを解いてください。
- 制限時間は第1種・第2種とも3時間です。

1 関係法令（有害業務）

①

このパートの問題は、第1種を受験する方のみ解いてください。

問1

法令に基づき設置された局所排気装置等の定期自主検査に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 自主検査は、1年以内ごとに1回、定期に行わなければならない。
- (2) 自主検査の記録は、3年間保存しなければならない。
- (3) 自主検査の結果に基づき補修等の措置を講じたときは、その内容についても記録しなければならない。
- (4) 1年を超える期間使用しない装置については、その期間中は、自主検査を行う必要はない。
- (5) 自主検査の結果について、所轄労働基準監督署長に報告しなければならない。

問2

次の化学物質のうち、製造するために法令上、あらかじめ厚生労働大臣の許可を受けなければならないもの（製造許可物質）として、正しいものはどれか。

- (1) シアン化水素
- (2) アクリルアミド
- (3) ベリリウム
- (4) カドミウム

(5) 水銀

問3

法令に基づく安全衛生のための特別の教育に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 特別の教育の内容には、対象業務にかかわらず、労働者に対する監督または指導の方法に関することを含めなければならない。
- (2) 特別の教育の科目について十分な知識および技能を有していると認められる労働者に対しては、その科目についての教育を省略することができる。
- (3) 高圧室内作業にかかわる業務に労働者を就かせるときは、特別の教育を行わなければならない。
- (4) 廃棄物焼却炉を有する廃棄物の焼却施設において、ばいじんおよび焼却灰その他の燃え殻を取り扱う業務に労働者を就かせるときは、特別の教育を行わなければならない。
- (5) 特別の教育を行ったときは、その受講者、科目等の記録を作成し、3年間保存しなければならない。

問4

労働安全衛生規則上、危険有害な業務や環境で労働者が従事している事業者に課せられた義務として誤っているものはどれか。

- (1) タンクまたは船倉の内部などの場所で、自然換気が不十分なところでは、原則として内燃機関を有する機械を使用してはならない。
- (2) 暑熱、寒冷、多湿の屋内作業場については、半月以内ごとに1回、定期に、気温、湿度、ふく射熱を測定しなければならない。
- (3) 坑内労働の作業環境の基準値として、炭酸ガス濃度は1.5%以下であるよう、また、気温は37℃以下であるようにしなければならない。
- (4) 騒音にばく露される作業場所では、標識などによる騒音を発する場所の明示、隔壁などによる騒音伝ばの防止、6ヵ月以内ごとに定期的に等価騒音レベル